

TASC

Tokai university Alumni Society of Communication engineering department

東海大学通信工学同窓会

(通信工学科・コミュニケーション工学科・情報通信電子工学科)

2018年8月1日号

発行者 東海大学通信工学同窓会
会長 中西孝夫
URL http://tasc.gr.jp
住所 〒250-0117 神奈川県足柄下郡
事務局長 増田和則 方



東海大学同窓会 会長 高野 吉太郎

ご挨拶

東海大学通信工学同窓会の皆さまには、平素より同窓会活動に多大なるご理解とご協力を賜り、あつく御礼を申し上げます。

東海大学は通信工学を専門とされた松前重義博士が創立した大学です。皆さまは、まさしく源流となつた学問を学ばれた同志であり、創立者の理想に間近に触れて母校への理解を深め、帰属意識を高めてこられた方々です。

その同窓会活動は大変に活発であり、総会や懇親会のみならず、各種の研究発表会や講演会なども開催されております。

さて、母校・東海大学は昨年、建学75周年を迎えられました。そして東海大学同窓会も2020年に設立75周年を迎えます。建学100周年を見据え



活動報告

2017年度は母校が建学75周年の大きな節目を迎え、同時に当会も再出発して11年目の新しい節目に入った年でした。

主な活動を時系列で報告します。先ず5月17日、18日に熊本地震のため延期しておりました創立者松前重義博士の故郷、熊本を巡る研修旅行を18名のご参加を賜り開催し創立者の足跡をたどる有意義な時間を共有しました。

5月27日には恒例の春の行事を開催、代議員会では活動報告と決算報告及び活動方針など承認をいただきました。講演会は通信ネットワーク工学科の森田直樹先生による「人工知能入門」を開催、今後益々生活に密着していく人工知能(AI)を学んでいただきます。

懇親会は恩師も含め70名を超えるご参加で学食コモドールで開催、会員相互間及び恩師との懇談を通して交流を

会長

中西孝夫 (66卒)

母胎である望星学塾の見学会を開催、参加者の皆さんのそれぞれへの理解と想いを深めていただきました。3月25日には学位授与式に合わせ通信工学同窓会賞を通信ネットワーク工学科の卒業生に授与しました。

最後に運営面ですが、皆様のご支援のおかげで会費・寄付金納入者数及び納入金額共昨年を上回る結果でしたが、広報掲載料、同窓会支援金などを加えても赤字となっており、更なる会員の皆様からの会費納入へのご協力を切に願ひ申し上げます。

2017年度 収支決算報告ならびに監査報告

以下のとおり2017年度通信工学同窓会の収支報告をいたします。 2018年4月1日

会長 中西孝夫
会計理事 澤田 茂

1. 一般会計

〈収入の部〉

Table with 5 columns: 科目, 予算(a), 決算(b), 執行率(b)/(a), 記事. Includes rows for TASC member contributions, other income, and previous year carryover.

〈支出の部〉

Table with 5 columns: 科目, 予算(a), 決算(b), 執行率(b)/(a), 記事. Includes rows for operating expenses, branch expenses, and other expenses.

2. 特別会計 (名簿発行積立金)

Table with 5 columns: 科目, 予算(a), 決算(b), 執行率(b)/(a), 記事. Includes rows for previous year balance, current year income, and current year disbursement.

監査報告

2017年度の東海大学通信工学同窓会の収入および支出は、関連の帳簿並びに証票の管理を含め、その執行は適切であり、貸借対照表並びに収支決算報告書はその状況を適正に表していると認められる。

東海大学通信工学同窓会 監事 室本 博進



2018年度東海大学通信工学同窓会活動方針

1. 全体活動

- 1) 大学同窓会へ学科同窓会として参画
* 校友会活動、同窓会代議員会、ホームカミングデー学部デモ及び同窓会デモ支援、同窓会AO入試推進など
2) 理事会開催 (定例会：四半期毎)
3) 代議員会開催 (定例会：毎年)
4) ホームカミングデー参画、同窓会サロンの開設、講演会など開催、ホームカミングデー案内誌に当会の広告掲載
5) 大学の協力を得て会員研鑽目的の講演など企画実施
6) 会報発行：8月1日全会員宛発送、活動報告、学園情報、恩師、会員寄稿など掲載、及び会費納入依頼
7) 通信ネットワーク工学科卒業生表彰
8) 会員名簿管理 (タイムリーな更新作業含む)
9) HP、メール・システム活用と円滑な運用 (通信工学同窓会便り発行)
10) 活性化のため、クラス会、同好会など支援 (名簿提供、案内状発送など)
11) 個人情報保護の徹底
12) 他の学科同窓会、同窓会支部との協調推進
13) 見学会など開催
14) 2019年度 (5年毎) の名簿発行準備

2. 支部活動

- 1) 支部活動を支援し活性化を図る
北海道支部総会開催 (3年毎)

2018年度 本部組織紹介
名譽会長 松前 達郎
顧問 松前 義昭
名譽副会長 木村 登
名譽教授 (61卒) 松尾 守之
名譽教授 (62卒) 福田 哲夫
名譽教授 (62卒) 山根 治仁
副会長 中西 孝夫
副会長 小林 一雄
副会長 柳沢 真一
事務局長 増田 和則
会計理事 澤田 茂洋
広報理事 大森 公雄
企画理事 中井 晴美
総務理事 室本 宏
監事 秋山 進

ご案内

*2018年11月3日(祭・土) ホームカミングデー
6号館6C-104教室(予定)同窓会サロン開設と講演会開催。
ご家族、友人お誘い合わせてご参加ください。
お知らせはホームページ http://tasc.gr.jp ご参照

通信ネットワーク工学科 宇津研究室紹介



通信ネットワーク工学科 准教授
宇津 圭祐
(2007年卒)

宇津研究室は2012年4月に開設され、2013年4月より卒業研究生の受け入れを開始し、今年度で6年目を迎えます。近年、我が国では大規模な自然災害が多く発生しており、防災・減災の重要性が高まっている背景をふまえ、本研究室では、安心・安全のための情報システム、ソーシャルメディア活用を対象として研究開発を行っています。

主な研究内容についてですが、防災・減災に役立つアプリケーションといたしまして、ソーシャルメディアと連携した災害時安否確認システムや、スマートフォンアプリケーションのLINEと連携した地域情報の配信・見守りシステムの研究開発を行っています。また、災害時の個人の安否確認の効率化のための、ソーシャルデータの分析・活用に取り組んでいます。具体的には大規模災害の発生後にTwitterに投稿される情報を収集・分析し、減災に役

立てることについて検討しています。通信ネットワーク工学科ではございますが、情報通信工学そのものを取り扱っている研究室ではなく、情報通信技術で社会に役立てられるアイデアを考案・実装・展開していく、というスタイルの研究室でございます。

本研究室はこれまで、さまざまな共同研究事業に参画して参りました。東海大学では文部科学省「地(知)の拠点整備事業(大学CoC事業)」の採択を受け、2013年度から2017年度まで地域連



携事業To-collaboを進めて参りましたが、その事業の中のひとつである大学推進プロジェクト「地域デザイン計画(安心・安全)」に参加しておりました。こちらでは、プロジェクトで開発した災害情報共有システムを用いた、中高生対象の防災教育ワークショップの開催等に協力して参りました。現在は、東海大学平成28年度私立大学研究ブランディング事業採択課題「災害・環境変動を目的としたグローバル・モニタリング・システムの構築による安全・安心な社会への貢献」のプロジェクトに協力しております。こちらのプロジェクトでは、リモートセンシングによる「グローバル」な情報と、ソーシャルメディアを介して発信される「ローカル」な情報を結びつけ、災害や環境変動の監視を目的としたシステムの構築に関する研究を進めております。

本研究室の研究業績でございますが、所属学生の学会発表を積極的に勧めており、高輪キャンパス内では上位の業績を上げております。また、大学院生のみならず学部生の国際会議発表も毎年数件行っています。これからも、社会で活躍できる優秀な人材を輩出できるよう努力してまいります。

最後に、同窓会の皆様におかれましては、日頃から通信ネットワーク工学科に応援をいただき、心より感謝申し上げます。今後ともご支援をいただければ幸いです。

卒業生便り 2つの顔を持つ

櫻井 邦彦

(2018年通信ネットワーク工学科卒)



私は外国語大学を卒業した父の影響により、幼い頃から英会話教室や小学校での英語の授業を通して英語に触れてきました。そのため、東海大相模高校在学中は英語文化コミュニケーション学科への進学を志望しており、ニュージーランドへの留学も経験しました。しかしながら、「英語を大学で専攻しても話せる様になるとは限らない。より良い職に就くためには理系に進むべきだ」という周りからの助言を受け、通信ネットワーク工学科へ入学、卒業し情報通信学研究科の大学院生としての今に至ります。

この原稿執筆にあたり、まず頭の中に浮かんだのは大学に入学してすぐの第1セメスターです。高校在学中より数学や物理が苦手だったため、これらの分野に関わる授業で大きく単位を落とすことになりました。その後のセメスターでも思う様に単位を取れないことがありました。

その様な状態の私にとっての1つの希望は英語であったと思います。大学の授業に慣れた2年次の春休みにオーストラリアへ留学しました。必修の英語の授業への取り組みやTOEICをほぼ毎回受験していたこともあり、ニュージーランドへの留学時と比べ、はっきりと相手に自信を持って考えを伝えることができるようになりました。一方で、自分の英語がまだまだ完璧ではないということにも気づかされました。

3年生になり、国際学会でこれまでに身につけた英語力を発揮したいという思いから石井研究室を志望、配属され博士課程の大学院生と英語で話していたとき、やはり、自分にはもっと英語力を向上させるための訓練の場が必要だと思い、その後もTOEICをほぼ毎回受験し、イングランド、カナダへの留学を経験しました。また、タイのモンクット王ラカバン工科大学の留学プログラムへの参加時には、当初からの夢であった自分の研究について海外の研究者と英語でディスカッションをするということを叶えることができました。

大学への入学直後は自分の進路選択が正しかったのかという点について、とても疑問や後悔の思いを抱いていたものの、英語スピーチコンテストでの準優勝、ISU四大陸フィギュアスケート選手権の学生国際ボランティアへの参加など、英語を専攻とする学生たちと共に戦ったことをとても誇りに思います。今思えば、辛い時はいつも「自分には理系学生と英語という2つの顔がある。」ということ胸に頑張っていました。今後は国際学会でこの自分の英語力を存分に発揮したいと思えます。

思い出 inマレーシア

若林 敏雄 (68年卒) 名誉教授

2011年10月から3年間、マレーシア日本国際工科院 (MJIT, Malaysia-Japan International Institute Technology) の教授としてクアラルンプールに滞在した。この大学はマレーシアのマハティール首相が37年前に提唱した東方政策の集大成としてマレーシアと日本が創設した大学である。

大学には徒歩で30分ほどかかり、着くと汗まみれとなる。シャワーがないためタオルをぬらし、汗をふき取り着替えて仕事を始めるのが日課である。不思議なことに月に1度くらいは見知らぬ

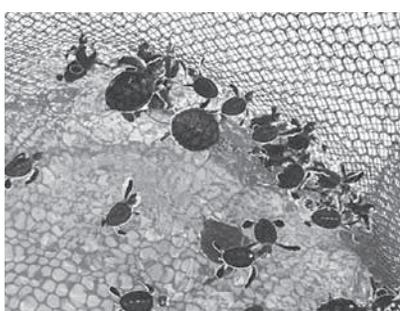


写真1 生簍の中の元気な子ガメ



写真2 ラフレシア

人の車に乗せていただくこともあった。無用心と思う人もあるが、結構うれしく、今日も拾ってくれないかと欲をかけたしまったものである。

同僚と共にマレーシア国内を旅した。クアラルンプールから東へ240km、車で3時間弱ほど行くと東海岸の都市・クアンタンに出る。そこから北に50kmほど行くとチュラティンウミガメセンターがある。この地域はウミガメの保護区で、多くのウミガメが産卵にやってくる。センターでは孵化や放流などウミガメの保護活動に取り組んでいる。4月から9月の時期は産卵や放流なども体験できる。写真1は放流前の子ガメである(現在、観光目的の放流を見直しているところが多い)。東海岸沿いにはヤシの林と穏やかな海原が広がり、手付かずの南国の自然が満喫できる。

さらに、北上すると、かつて日本軍が上陸した、タイとの国境の町コタバルにたどり着く。静かで落ち着いた田舎町といったところだが、人口は50万程でマレー人が大多数という。市内にある戦争博物館には生々しい戦争記録があるが、反日的な展示には思えない。マーケットや市内の名所を訪れても、日本に対して好意的な印象である。そして、コタバルからタイとの国境近くを西へ180kmほど行くとロイヤルベラム州立公園に着く。その一画に住んでいるマレーシア先住民のオランアスリ村を訪れた。ここの人達はマレー王国誕生以前にマレー半島に住んでいた人々の子孫であり、各地でそれぞれ異なる伝統や風習を育み、独自のアイデンティティを持っている。しかし、現在はマレーシア政府の管理下に置かれ、限られた地域で生活している。宗教等の関係もあり、観光などで生計を立てている人や、昔ながらの生活をしている人もいるとのことである。いろいろと考えさせられる体験であった。(写真2は公園で見られたマレー半島の寄生植物ラフレシアの花である)



- | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|-----|--------|-------|--------|-----|--------|--------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 2017年度
通信工学同窓会賞受賞者 | 優秀賞 | 池田健一郎君 | 柳 宏之君 | 依田 和樹君 | 努力賞 | 櫻井 邦彦君 | 荒川 大樹君 | 上島 剛君 | 齊藤 純輝君 | 植田 優基君 | 皆川 平蔵君 | 鈴木 達也君 | 大浦 和長君 |
|-----------------------|-----|--------|-------|--------|-----|--------|--------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|

透析医療を中心に豊富な経験と実績で患者さまの声にお答えします。

医療法人社団 松和会

Medical Corporation SHOWAKAI

〒160-0023 東京都新宿区西新宿3丁目12番12号
TEL 03-5304-5660 FAX 03-5304-5665
URL <http://www.showakai.or.jp>
e-mail: webmaster@showakai.or.jp

山王総合(株)は
東海大学陸上競技部をサポートしています

Humanly Construction
SANNO
New Facility Management

業務内容
・建築施工 ・土木施工 ・設備施工
・設備管理 ・環境衛生管理
・保安警備 ・人材支援
・研修施設の委託運営
・医療機器設備、システム管理他

山王総合株式会社
〒259-1142
神奈川県伊勢原市田中141 TEL 0463-95-7700
<http://www.sanno-sogo.co.jp>
東京・神奈川・千葉・埼玉・山梨・静岡・北海道

icp

国際通信企画株式会社

URL <http://www.igrp.co.jp/icp/>

【新卒募集】
通信設備工事技術者/SE・SI・NE
会社見学、随時受付しております。人事課迄お気軽にお問い合わせ下さい。
人事課 e-mail jinja@igrp.co.jp

皇居や東京タワー、国会議事堂、レインボーブリッジなどが展望できるフロア。

レストラン フランス料理・鉄板焼

宴会・会議場

東海大学校友会館
The Tokai University Club
株式会社 霞ヶ関東海倶楽部 www.tokai35.jp
〒100-6035 東京都千代田区霞が関3-2-5 霞が関ビル35階
TEL 03-3581-0121(代表) FAX 03-3581-6200

哀惜が築いた私のチャレンジ精神

松田 宗一郎 (62卒) 山岳部OB

工学部を目指していた私が、京都の高校三年生の四月に、父は東京勤務となり、転校できない私を残し家族は引っ越しました。東京に疎い父は知人に進学を相談すると、小さく有名ではないが、松前重義さんが創立された東海大学が良からうとのこと、昭和三十三年入学し、登山に興味がありましたので、山岳部に入りました。四年生部員に通信の永田壯三さんがおられました。彼は入学前、将来の進路を考えている頃、彼の兄の知人で、東芝マツダ研究所で真空管を研究されていた平島正喜氏が、本学の電子工学担当教授に決まり、私と一緒に勉強しよう誘われ、三十年入学の東京移転第一期生です。彼は清水校舎から届いたテントや寝袋等の登山用品を見つけ、友人と顧問(現在の部長)には建設課職員の下山寿之さんが就き山岳部を創部しました。初期の活動の中には、FM放送の電波調査のため富士山に、平島教授、山下さんと一緒に登っています。



山岳部50周年記念誌祝賀会 平成21年4月25日
右から2番目永田氏、3番目松前達郎総長、4番目山下氏、6番目筆者

夏には、彼がリーダーとなり十四名は、南アルプスの夜叉神峠、吊尾根、富士山に次ぎ高い北岳、間ノ岳、農鳥三山を縦走し、清水校舎に寄って帰京した十日間の合宿でした。秋合宿も終わり、冬合宿は八ヶ岳縦走と発表され、事前調査の偵察登山、冬用装備の購入、使用方法の習得、体力強化の訓練等を着々と行った。チーフリーダー・米持米蔵さん(三年生)、サブリーダー・野沢賢さん(三年生)とする十名は五日間の予定で、十二月十八日夕方、代々木校舎を出発、十九日早朝、小海線海尻駅から雪曇下を歩き、本沢温泉でテントを張り泊まった。二十日、悪天候であるが、硫黄岳石室を目指しました。夏沢峠では強風と吹雪なので、差し当り不要な荷物を残して登ると、意外に早く到着しました。そのため、元気な米持米蔵さん、野沢賢さんと姜永仁さん(一年生)の三名は置いてきた荷物を取りに行ったが、夜になっても帰って来ないので、永田さん、渡辺一博君(一年生)と私が探しに出て、暫く歩くと出会いました。暴風雪で真っ暗闇のため戻る道に迷い、這松地帯に穴を掘って寝袋を被り、六名がお互い肩を組み車座になってビバーク(緊急の野営)をしたが、荷物を取りに行った三名は、石室と目と鼻の先で、二十一日早朝、死去される痛ましい遭難事故を起こした。二十三日、遺体は地元で茶毘に付され無言の帰京となってしまいました。

二十五日、盛大な大学葬が代々木校舎で執り行われ、松前重義総長は弔辞を述べるとともに悲劇を嘆き、弔歌

「中道に倒れし若人を悼みて」
一、紺碧の空 真白き山々
遥かに望みて われら涙

言葉なく帰りぬ 三つのむくろ
捧げ思いを 若き御魂に
二、理想に燃え わが学舎に
共に学びし 友今何処
君強かりき 君情けあり
その冬山の 白雪のごとく
三、希望の頂 高く望みて
その中道に 君は倒れぬ
われら進まん かばねを越えて
われら頼ん 君が御魂に

を捧げられました。当時の学生手帳には建学の歌、校歌と共に載っており、それらの合唱を収録したレコード盤もありました。

この遭難に対し、我々は世間からは冷たい目で見られ、貧弱な装備で未熟者の疲労凍死の犬死であると痛烈な批判を浴びました。

永田さんが報告とお礼に、総長を伺うと「続けるだろうな! 続けるよ」と、落ち込んでいた彼を鼓舞されたので、感激のあまり身震いし、喜び勇んで再建を誓い、体制作りを急ぎ、部長には、授業を受けた松前達郎先生(現総長)に、技術指導の顧問には、登山家で永田さんの知人の岡本龍行さん(後に、本学の職員)に就任を懇願して、快諾を頂いて再建の基盤を作った後、卒業して大阪に在る会社に就職された。

弔歌には松前紀男先生が作曲され、奥棟の指導で歌の練習をした。三十四年七月、遭難場所に慰霊碑を設置し、遺族と碑の前で、ご冥福を祈り合唱しました。

冬合宿は時期尚早とされ、三十五年一月、スキーが上手な部長の松前達郎先生も参加され、十名が新潟県石打丸山スキー場で六日間の合宿をしました。三十五年度は、四年生部員がいなかったので私が主将に就任し、松前先生からは「事故を起こしてはならないが、恐れて萎縮するのは良くない。岡本さんとよく相談して自分自身が納得するならば、岩登りも、冬山登山もするが良い。許可する。重要なことは、自分自身が納得した計画書を作ることで、後は実行するだけだ。」と諭されました。岡本顧問の指導により技術が向上し、夏には、十五名が北アルプスの剣岳、薬師岳、槍ヶ岳、奥穂岳を縦走する十五日間の合宿を行った。簡単な岩登りと短い冬合宿も再開し、日本山岳会学生部にも加入でき、再建は軌道に乗りました。

私は三十七年に卒業し、当時、文系の職場だった商社への就職は、文理融合であり、未知の輸出市場開拓のため、ニューヨークとブリュッセルに家族同伴の駐在は、松前重義総長の「続けるよ」と弔歌にある「われら進まん かばねを越えて」と共に松前達郎総長の「萎縮するな。自分自身が納得すれば実行しろ。」と教示頂いたチャレンジ精神の賜物であり、傘寿を迎える今、元気なのは山岳部のお陰と感謝しております。

最後に、亡くなられた三名のご冥福をお祈りします。



石内丸山スキー場にて 昭和35年1月5日
右から 4番目松前達郎総長 3番目筆者

今日この頃

長江 和子 (68卒)



二科展入選作品の前にて

故郷を離れ半世紀も過ぎました。すでに、故郷で暮らした年数の数倍の東京暮らしです。なのに、煙を吐く汽車に乗って上京した日はついでこの間のように思われると同時に、ずいぶん長い月日が経ってしまったような今日この頃の気持ちです。

しかし、日本海に面した庄内砂丘地にある小さな村には空港ができ、村の道路は舗装され村から牛や馬は消え、久し振りに帰った時には実家にたどり着けなく途方にくれてしまったことがあった。牛や馬だけでなく、村の空き地にあふれていた子供達の姿も消え農家の広い庭には自転車代わりの車が二、三台、所狭し、と並んでいる。畑には沢山のビニールハウスが並び、村人は家と畑を車で移動し、道路には人々が行き交う姿はない村へと変わっている昨今である。

若いときに抱いた「夢」、未来に向かっての「夢」など、いろいろな「夢」があります。私の夢は何だったんだろう? わからないこと、知らなかったことを発見することだったのかな…。学生時代は通信工学を専攻し、私にとっての未知の世界を知ることに喜びを感じ、大学院時代は研究の苦しさを知ったこと。研究解析のためのプログラム開発、コンピュータの進歩とともに変わる世の中を見ることができたこと。大学院二年の時、隣の研究室の角田先生が「これからは壁に絵のように掛けられるテレビになるんですよ」と、にこにこしながら話されていたのがついでこの間のようなのである。感激した大きなお弁当箱のような電卓は当たり前のようにどンドン小さく安くなった。すでにテレビは絵のように壁に掛けられている。コンピュータは計算機の時代から事務処理に活用される時代となり、文系の学生にもコンピュータ活用教育が必要とされるようになった時、文系学生へのコンピュータ教育を担うようになった。

ベーシック、コボル言語によるプログラミング教育からマイクロソフト社製のソフトの活用教育、インターネット活用教育とコンピュータ環境に伴ってコンピュータ活用教育は変わる必要があった。そのため文系学生への情報教育方法に関する研究が主となった。

インターネットシステムを構築し、ホームページの作りかたの指導、商経科の学生にはホームページ上で簿記の演習をするためにプログラムを開発するなど、教育用コンピュータ環境とその教育方法の

開発と研究と充実した日々であった。これらのことを若い後輩達とともに考えられた環境に三十年近くもこの身を置くことができたこと。これらは若いころに抱いた「夢」だったのかも知れない。

さあ、人生九十年、いや、百年、まだ三十年近くあります。これからの「夢」を探さなければと…教員生活退職後に京都造形大学の通信教育部の学生となり、歴史遺産学を学び、古事記、日本書紀などから国の成立から幕末、さらにその時代時代に生きる人々の暮らし、文化などを覗くことができた。

歴史学者は長い間、水呑百姓を貧しい農民と解釈してきた。しかし、中世史学者・網野喜彦氏は、「時国家文書」から江戸初期に能登の廻船商人・柴草屋は身分的には頭振・水呑に位置づけられているが、時国家に百兩の金を貸し付け、柴草屋は廻船と商業を営み土地を必要としない豊かな人であることを明らかにした。

さらに、上時国家のふすま裏紙からでた「百姓円次郎の願書」からは円次郎の村は、町野川右岸の海辺の集落曾々木は塩を作っているだけの貧しい村と考えられていたが、百姓円次郎は大きな船で日本海の各地の港町で取引をし、松前までいく廻船交易をやっていたことを読み解いた。

これらのことから百姓と農民は等しくなく、田んぼを持っていない人ではなく、土地を必要としない人達であり、歴史上の水呑百姓の多い貧乏村と解釈されていた村は、土地のいらぬ金持ち村であると読み直されている。歴史上、貧しい村と解釈された村は金持ち村となることもある。

日経新聞「東京デジタル・ヒストリーシンポジウム」記事によると、図書館や文書館、博物館などで収蔵資料のデジタル化が進み、デジタル資料を活用した歴史研究者が急速に増えており、若手研究者は公文書などの電子資料に統計プログラムを駆使し、大量のデータをもとに人に関係する事柄の歴史の変遷を明らかにするあたらしい研究が進んできているようである。デジタル技術は歴史研究者が参照できる史料のすそ野を広げ、研究手法の多様化を促す一方で「データの海に溺れる危険性も増すことになる」と、シンポジウムを主催した東京大学の小風尚樹氏は指摘している。



42通2クラス会にて

コンピュータが計算機の時代から情報処理・発信機となりネットワークと結びつき、コンピュータ、スマホの後ろには世界がつながらり、世界は狭く、近くなり、とても便利な時代である。情報を活用することに目を奪われ情報の海に溺れないように、情報に潜んでいる危険を理解するにはどうすれば良いのでしょうか……。

この後、世の中はどのように変わるのか健康寿命百年を生きてみたいと思いながら、二科展に出品するための絵を描いている今日この頃です。

私のプロフィール

山根 治 仁 (62卒) 参与

長年、参与を務めておりますが皆さんに自己紹介をしたことがありません。

本会報への寄稿を機会に私のプロフィールと近況をお伝えしたいと思います。

生まれは広島で広島大学東雲付属中学から広島国泰寺高校(旧広島一中)を卒業し東海大学工学部電気工学科通信工学科入学。大学時代は谷村先生ご指導のもと電波伝搬を卒論テーマにしました。クラブ活動は写真クラブに入り写真に没頭しました。卒業後1962年(昭和37年)「日本テレビ放送網株式会社」技術局入社。日本テレビでは多重放送(音声多重、文字多重)やニューメディア等の放送技術の開発に携わる。山手線6扉に初めてTVを入れたのは日本テレビの山根の功績と言われております。日本テレビを退職後は日本テレビ関連会社「アクセス4」(注1)の役員を4年ばかりやりその後「ムービーTV」(注2)で文字放送のコンサルタントをやりながら千葉市浜幕張の近くのヨーロッパ風のおしゃれな街並み幕張ベイタウンの一角で画廊「ギャラリーキキ」を開業しております。その間10年以上にわたって幕張ベイ

ちから「中小企業表彰



タウン商店街振興組合の理事長をつとめております。街全体のにぎわいや商店街の活性化のため、毎年8月末に行われるベイタウン夏祭りや朝市、街をイルミネーションで彩るウィンターフェスティバル、訪日外国人(インバウンド)の誘致のための4カ語パンフレット制作等が評価され平成29年度中小企業賞を森田健作千葉県知事から授与されました。

東海大学通信工学同窓会では2010年賀詞交歓会で放送業界の卓話をいたしました。現在は参与を務めております。趣味としてベイタウン写真クラブとエルダーズテニスクラブの会長をやりながら毎日を楽しんでおります。

海浜幕張の近くにお越しになった時には是非画廊「ギャラリーキキ」にお立ち寄りください。

「ギャラリーキキ」ホームページ <http://gallery-kiki.com>
メール yamane@gallery-kiki.com

注1:現在は事業解散 2:現在ブロードメディアスタジオ



森田知事から表彰状授与

通信工学同窓会見学会報告

中西孝夫 (66卒)

3月2日、20名の会員のご参加でNTT技術資料館と望星学塾の見学会を開催しました。ご参加できなかった会員の皆様へご紹介させていただきます。

NTT技術史料館

NTT武蔵野開発研究センター（通称武蔵野通研）に付属する施設で明治2年(1869年)電信の創業から電電公社、NTTと電気通信の歴史、技術、サービスの歩みを貴重な資料と共に紹介しています。松前達郎総長は11年間勤務しステップバイステップ型のA型交換機、H型交換機のセレクトスイッチの接点の改良と亜鉛メッキの技術改良に大きな業績を残されています。創立者松前重義博士の無装荷ケーブルと共に親子二代に渡り電気通信技術に貢献されたことに深く敬意を表します。

施設は地下1階から地上3階まで、各フロアテーマを持って展示されており、NTT、OBのスタッフの説明が受けられます。

地下1階のテーマは“電信電話とはじめ”“復興と成長の時代”

主な展示として、ブレイク電信機、無装荷ケーブル、装荷ケーブル、写真電送、国産初型交換機など、装荷ケーブル、無装荷ケーブルの前では会話が盛り上がりしました。

1階のテーマは“技術革新と多様化の時代”

ノード技術とトランスミッション技術に関する各種交換機、伝送路が展示されています。A型交換機のステッパーに興味を集中しました。

2階のテーマは“デジタル技術とマルチメディアの時代”

光ファイバー、材料物質の基礎技術、アクセス網が展示されています。NTTの開発した光ファイバー製造装置や世田谷局火災(1984年)に関心が集まりました。



NTT技術史料館にて

3階のテーマは“技術史にラウンジ”

文字画像、通信サービス、NTT開発電算機MUSASINIO（実用化したパラメロン計算機）、DIPS、CM-100などが展示されています。また現代のモバイルネットワークのための衛星技術、NTTが標準化に関わったインターネットに関する資料が展示されています。

望星学塾

母校の母胎と創立者松前重義博士の人生と使命を学ぶことができます。3つの場所を見学します。母校担当者の説明と案内が受けられます。

望星学塾記念館

1935年(昭和10年)無装荷ケーブル発明への浅野奨学祝金千円に義父からの借金を加え、内村鑑三の聖書研究会を手本にして開いた望星学塾、築83年の建物。創立者が招集され開塾されるまでの8年間に100名が学んだ。小林宏治氏(元日本電気社長)、米沢滋(元電電公社総裁)なども塾生でした。創立者は著書“わが人生”のなかで「私塾であったが望星学塾はたしかに教育の原点的存在であったと自負している」と述べています。

1940年(昭和15年)2階を増設して塾生室を設け寄宿生を募集した、その“開塾の辞”の草稿文が残されており建学の精神の原点となる“本塾の精神”の記述があります。

頼山陽13歳の時抱いた大志を詠んだ漢詩「千歳青史に列するを得ん」

クラーク博士の「青年よ大志を抱け」

エマソン「汝の車を星に繋げ」

人生観、世界観の把握

使命感の確立

東海大学松前重義記念館

創立者ご夫妻が住まれた旧居、山田守先生設計(京都タワー、日本武道館設計)

2階建て、応接間にはドイツ留学時購入されたピアノなど数多くの遺品があります。

二階には奥様が趣味とされた絵を書かれた部屋も見学できます。また庭には招集された創立者の帰りを待つ家族の想いの陶器の“かえる”が石灯籠の中に今も置かれています。

望星学塾本館

1979年(昭和54年)創立者が国際柔道連盟会長に就任した記念として1981年に開館。柔道場、他目的ホールなどがあり望星講座などの活動の場として使用されている。

会長に立候補した理由について著書“わが昭和史”のなかで“二代目チャールズ・パーマー会長の独善的運営とスポーツ化による変化から嘉納治五郎の知育、徳育、体育の三位一体の教育的柔道を取り戻したかったと述べておられます。玄関前にある創立者の胸像は文化勲章受章者で長崎平和像で知られる北村西望氏の作。

現在、望星学塾では、「望星講座」、「松前柔道塾」と活発な活動を行っています。



望星学塾 松前重義記念館

町田先生を偲んで

柴田 豊 (84卒)

TBSテレビ メディア戦略室 担当局長



1980年に東海大学通信工学科に入学しました柴田と申します。僥越ですが町田先生との思い出を述べさせていただきます。

町田先生との出会いは、学部1年の電気回路の授業でした。先生の授業は丁寧でわかりやすかったと記憶しております。なかでも、細かな手計算を行わずに暗算で回答を導き出す説明には感心しました。「(問題を)見た！(回答が)できた！」と仰っていましたね。

一方で授業は厳しく、話している人がいると、「なにごちゃごちゃ言ってるんだ！名前、名前は？ 授業中に話すなんて頭きた、減点1」と出席簿にチェックを行うこともありましたが、本当に減点していたかわかりませんが、私語ができない授業でした。

私は、卒業研究に敢えて厳しい町田先生の研究室を希望し、卒研・大学院と厳しくも温かいご指導を頂きました。私の就職のとき、「俺は水商売の放送局へ就職することは反対だ！」と、認めてもらえず、大変な思いをして納得してもらったことが思い出されます。

町田先生と最後にお会いしたのは3年前の回路研OB会でした。“もう年だ”と仰っていましたが、まだまだ町田節は健在でした。近頃は足の調子が悪いと伺っていましたが、突然の訃報に驚いております。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

ご挨拶

中井 宏 (94卒) 総務理事



私は現在東海大学に勤務しており、主に湘南校舎の14号館で業務しています。

14号館は在学中の1992年に完成しました。在学当時は14号館での授業は履修していなかったため、訪れる機会は無かったのですが、やはり新しい建物は気になるもの、授業の合間に見に行きました。

14号館の中に入ると、地下より5階までの大きな吹き抜けがあり、その天井はガラスがアーチ上に組まれ、太陽の光が地下まで射し込んでいました。吹き抜けのスペースにはエスカレーターが設置され、ドア、壁などもパステル調の色が使われ、明るい雰囲気でした。大学の校舎と言うよりも商業施設に近いと感じて覚えています。

地下には学食もありました。地下と言っても、傾斜を利用して立てられているため、日差しが入る構造になっていました。試しにカレーライスを注文すると、真っ白な40cmほどある平らなお皿に、美しく盛りだくさんで、カフェのような雰囲気さえ感じました。「8号館の学食とは違う！」なんて思ったこともありましたが、

さて、湘南校舎は今年19号館が完成しました。在学当時より5つの建物が増えたことになります。

螺旋的特徴的な3号館のスロープを上がり正門方向(南側)を眺めると、メタセコイアを始め多くの木々がキャンパスの大半を占めています。その木々の間に、卒業後に建設された16号館、17号館、18号館、19号館と近代的な建物が建っています。木々も建物も成長したようです。

大学の周囲も変化しました。東海大学前駅にはペDESTリアンデッキやバスターミナルが設置されました。近道商店街から大学へ上がる急な坂、当時は留年坂なんて呼び方をしていましたが、その先の階段はエスカレーターに変わっています。

久しぶりに湘南校舎を訪れてみてはいかがでしょうか。会員のみなさんの学生時代で感じることは異なると思いますが、きっと学生時代に戻れますよ。

理事としては新米ではありますが、皆さんとお会いできるよう精一杯努めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

ご挨拶

大森 公雄 (87卒) 広報理事



2017年度から広報理事に就任いたしました、87年卒業の大森と申します。

松尾先生からTASC立ち上げでの支援を依頼されてから10年が経過し、そろそろ普通のおじさんに戻ろうかと思った矢先に広報理事就任を打診され、悩みましたが最後のご奉公という

ことで引き受けることにしました。

簡単な自己紹介をさせていただきます。私は1987年に(株)日立製作所に入社し、現在、システム&サービス事業所の品質保証部門に所属しております。

趣味はテニスや、マラソン、サッカーや野球の観戦です。応援しているJリーグのチームは柏レイソルで、現在の監督は東海大学出身です。野球では、巨人を応援しています。菅野投手、日立製作所出身で今年巨人に入団した田中俊太選手など、東海大学出身で活躍している選手を見ると、誇りに思います。

大学を卒業して20年くらいは、同窓会など出たこともなく、TASC立ち上げから同窓会に参加するようになりました。この同窓会を通じて同じ会社にいる先輩を知ることができました。先輩方のお話を聞いていると、定年退職後でもパワーがあるなあと感じます。

一番驚いたのが、通信工学科がなくなっていたことでした。

自分の所属していた学科がなくなるのは寂しいものですが、TASCがあることで、通信工学科があったことを証明し続けられると思います。この同窓会もずっと続けていければよいと思います。今後、理事を退任しても、イベントなど参加できるときは参加していきたいと思っています。

つらつらとまとまらず書いてしまいましたが、今後ともTASCと一緒に盛り上げていただければ幸いです。今後ともよろしくお願い致します。

■ 訃報

町田東一先生(名誉教授)が4月11日ご逝去されました。享年78歳。心からご冥福をお祈りします。

● お願い

- *円滑な運営のため会費未納の方の納入をお願いします
- *住所、メールなどの変更は事務局までご連絡ください
- *クラス会など開催支援いたします、事務局までご連絡ください

ホームページ <http://tasc.gr.jp> 事務局宛てメール jimu@tasc.gr.jp

東海教育産業株式会社 代表取締役 柳沢真一



本社 神奈川県伊勢原市下粕屋164
 TEL. 0463-92-1881 (代)

伊勢原旅行センター 神奈川県伊勢原市下粕屋143 東海大学医学部付属病院内
 TEL. 0463-93-3980 (代)

湘南旅行センター 神奈川県藤沢市南栄3-10-35 東海大学同窓会館内
 TEL. 0463-77-3522 (代)

熊本旅行センター 熊本県熊本市東区渡産9-1-1 東海大学ゆきや会館内
 TEL. 096-250-2885 (代)



営業企画室 神奈川県伊勢原市下粕屋164
TEL. 0463-93-1870 (代)

ホームページ <http://www.tokai-eic.co.jp/>